

2025 年 12 月 12 日

日揮ホールディングス株式会社
株式会社レボインターナショナル
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

愛知県小牧市、中部国際空港と 廃食用油の SAF 等への資源化促進に関する協定を締結 ―尾張地域初、小牧市内で回収した廃食用油を SAF 製造に利用―

日揮ホールディングス株式会社（代表取締役会長兼社長 CEO：佐藤 雅之、以下「日揮 HD」）、株式会社レボインターナショナル（代表取締役 CEO：越川 哲也、以下「レボインターナショナル」）および合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（代表者：高田 岳志、以下「SAFFAIRE SKY ENERGY」）は、愛知県小牧市（市長：山下 史守朗）ならびに中部国際空港株式会社（代表取締役社長：籠橋 寛典、以下「中部国際空港」）と持続可能な航空燃料 SAF（Sustainable Aviation Fuel、以下「SAF」）等の原料となる使用済み食用油（以下「廃食用油」）の資源化促進を図るため、「持続可能な社会の構築に向けた廃食用油の資源化促進に係る連携及び協力に関する協定」（以下、「本協定」）を 2025 年 12 月 11 日に締結しましたのでお知らせします。また、同日に小牧市役所で本協定締結式を執り行いました。



協定締結の様子（左から日揮 HD の秋鹿正敬専務執行役員、中部国際空港の籠橋寛典社長、小牧市の山下 史守朗市長、レボインターナショナルの越川哲也代表取締役 CEO）

さらに、小牧市は、SAF で航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクト「Fry to Fly Project」にも参画し、市内の家庭などから回収した廃食用油を SAF へリサイクルする取り組みを進めます。

【協定締結に至った経緯】

中部国際空港は、廃食用油の国内資源循環による脱炭素社会の実現に向けたプロジェクト「Fry to Fly Project」ならびに国産 SAF（Sustainable Aviation Fuel：持続可能な航空燃料）の商用化および普及・拡大に取り組む有志団体「ACT FOR SKY」に参画し、廃食用油を SAF に循環させる取り組みを推進してまいりました。

中部国際空港が、県内自治体である小牧市と、国内で唯一の国産 SAF 量産設備を有する SAFFAIRE SKY ENERGY、出資者である日揮 HD、レボインターナショナルの 4 者を引き合わせ、このたび、小牧市の家庭等から排出される廃食用油を回収して SAF に資源循環させるための協定を締結することとなりました。

尾張地域(愛知県の北西部に位置し、14 市 4 町で構成※2024 年 5 月時点)において、廃食用油を SAF へ循環させることにより、市民が直接参加可能な資源循環型社会の実現を目指す協定を締結するのは初めてとなります。現時点で製造された国産 SAF は、当面の間、国内主要空港発の国際線旅客機や貨物機の燃料として使用されることになります。

日揮 HD、レボインターナショナルおよび SAFFAIRE SKY ENERGY は、中部国際空港および小牧市と連携し、将来各空港において国産 SAF のニーズが拡大していくことを見据えて、市民に対する機運醸成を図り、廃食用油の資源循環をより一層推進することでカーボンニュートラル社会の実現を目指します。

【協定の主な内容】

- (1) 廃食用油の回収に関すること。
- (2) 小牧市内で回収した廃食用油を用いた SAF 等の製造に関すること。
- (3) 本再資源化を広く情報発信する機会の提供に関すること。
- (4) その他、本協定の目的を実現するために必要なこと。

【協定に基づく具体的な取り組み】

小牧市は 2006 年から、市役所や市民センターでの拠点回収および資源回収ステーションにて家庭で排出された廃食用油を回収しています。回収した廃食用油は石鹸等にリサイクルしていましたが、その用途は限定していませんでした。今回の協定に基づき、小牧市が回収した廃食用油をレボインターナショナルが収集し、国内初の SAF 大規模生産を行う SAFFAIRE SKY ENERGY のプラント(コスモ石油堺製油所内、2024 年 12 月完工)へ運び、国産 SAF の原料として資源化します。

加えて、市内の保育園や給食センターで排出される廃食用油も SAF の原料として活用します。

【これまでの小牧市における家庭等から排出された廃食用油の回収実績】

回収開始： 2006 年 4 月

回収場所：【家庭】小牧市役所、東部・味噌・北里市民センター、エコ・ハウス小牧、
第 1・2・3 資源回収ステーション、南部・西部コミュニティセンター

【施設】学校給食センター(3 箇所)、保育園(16 園)

回収実績： 2024 年度 30,755 リットル

リサイクル用途：石鹸等



【国内初の SAF 大規模生産事業の概要】

日揮 HD とレボインターナショナルは、コスモ石油株式会社と共同で、国内における廃食用油の収集から SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022 年に新会社 SAFFAIRE SKY ENERGY を設立し、国内で発生する廃食用油のみを原料とした年間約 3 万キロリットルの SAF の供給を目指しています。2024 年 12 月にコスモ石油堺製油所（大阪府堺市）内において SAF 製造装置の建設が完了し、2025 年 4 月から SAF の供給も開始しています。供給する SAF は、国際的な持続可能性認証である ISCC CORSIA 認証を取得しています。なお、本事業は NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より採択※を受けた助成事業です。

※NEDO ホームページ：https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100312.html



完工した SAF 製造装置

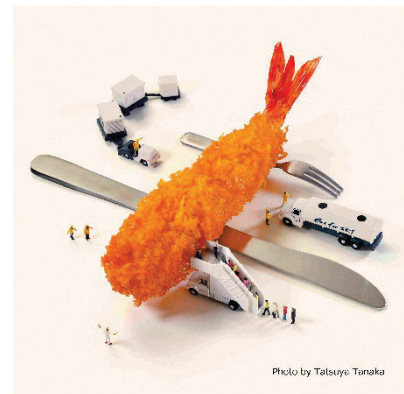


SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設

【Fry to Fly Project について】

「Fry to Fly Project」は、家庭や店舗などで発生する使用済み食用油を原料とする SAF を用いて、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。プロジェクトは日揮 HD が発起人となって設立し、設立主旨に賛同する企業・自治体・団体が、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加しています。

特 設 ホ ム ペ ー ジ：<https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>



以上